

国際赤十字・赤新月社連盟アジア大洋州地域事務所での活動報告

-Operations Coordinator として-

薬剤師 仲里 泰太郎

派遣期間（現地活動期間）：2025 年 5 月 22 日から 2025 年 8 月 20 日

派遣先：マレーシア・クアラルンプール

国際赤十字・赤新月社連盟（以下、IFRC）はスイスのジュネーブに本部を置いていますが、アフリカ、南北アメリカ、中東、ヨーロッパ、そしてアジア大洋州にそれぞれ地域事務所を置いています。アジア大洋州地域事務所（以下、APRO）はマレーシアのクアラルンプールにあり、私はその中で Operations Coordinator（以下、OpsCo）として 3 か月間業務を行ってまいりましたので、報告します。

APRO はいくつかの部署に分かれており、OpsCo はその中でも災害対応を主にを行っている部署に所属しています。カバーする範囲はアジア大洋州地域の 38 か国にある赤十字・赤新月社になり、それをさらに東アジア+太平洋地域、東南アジア、南アジアに分けてそれぞれ一人の OpsCo が担当します。私は 3 か月という短期の派遣でしたので、基本的には東アジア+太平洋地域を担当し、東南アジアと南アジアについては、必要に応じて支援するという形で業務に携わりました。



APRO 入口

主な通常業務の一つは、気象観測データや国連関係のサイトをモニタリングし、各国赤十字・赤新月社と情報共有を行うことで、災害発生時に被害を最小限に抑えるよう努めることです。日本ではあまり報道されませんが、アジアは 5 月からモンスーンやサイクロンの時期に入ることにより雨や洪水に関連した災



Web ミーティング

害や感染症が多発します。このような災害に最前線に対応するのは被災国の赤十字・赤新月社になりますが、APRO は主に資金管理や人員補助、実際のプロジェクトに関する助言等でこれをアシストしています。私もこの派遣期間中に、ネパールで発生した干ばつ被害への対応やスリランカのサイクロン被害への支援、また、日本赤十字社も参画しているバングラデシュでの避難民援助など、様々な種類のプロジェクトに関わることができました。

普段はクアラルンプールでデスクワークや会議を主体として業務を行っていましたが、マレーシアのサバ州で行われていた洪水に対応のプロジェクトに対する被災者からのフィードバック調査の視察に行く機会がありました。サバ州はマレー半島ではなくボルネオ島にあり、クアラルンプールからは飛行機で 2 時間半程度

かかります。この調査はマレーシア赤新月社のボランティアの方々を中心に行われましたが、その人道支援に対する情熱もあって非常にスムーズに進んでいきました。私自身も実際の被災者の方々から直接お話を伺うことができ、大変貴重な機会となりました。

これまで私は医療分野を主として国際救援に携わってきましたが、今回この OpsCo という業務を通じてそれ以外のライフサポートや支援に関わり、多くのことを学ぶことができました。また、現場からどのような情報を共有すれば、IFRC として迅速な現場支援につなげられるのかを、IFRC 側の視点から学ぶことができました。他ではおそらく得られないこのような経験を、ぜひ次のミッションで生かしたいと考えています。



マレーシア赤新月社、香港赤十字の方々